



柏葉



学校だより 第43号
令和6年3月22日(金)
福島県白河市立東北中学校
発行責任者 校長 渡邊泰昌
「自分の未来を切り拓け！」

修了式 充実した一年間。

3月22日(金)に修了式を行いました。一学年36名、二学年42名がそれぞれの学年の課程を修了し、進級いたします。この一年間の生徒の活躍は素晴らしいものでした。特に目を引いたのは、部活動と学習の両立です。それぞれ個人の違いはありますが、生徒一人一人が自分の力を出し切ったと確信しています。

◎学校と家庭が一緒に行いたいこと

学校では、子ども達の生活の中から、少しでも成長した部分や努力した点を観察し、子ども達の良い面を認め、称賛しています。親は、つい結果だけで言葉を発したり、何も言わないままで終わってしまいがち（私も親としてやりがちな点です）ですが、この節目を利用して、自分のお子さんの成長した部分や、認めてあげたいところをあえて言葉にして伝えていくことが大切であると思っています。ぜひ、修了証をみながらお子さんとの会話をする時間を確保していただければと思います。

修了式で次のことを伝えました「あ・た・ま」

本日、修了式を迎えました。皆さんがそれぞれの教育課程を立派に修了することができたこととともうれしく思います。一年を振り返ってみてください。一年前の自分と今の自分を比べてみてどうでしょうか？たくさん成長できたことが多かったのではないのでしょうか。その成長した所を自分で自分を認めていきましょう。自分を認めることができることで、それが自信につながり、次への行動への大きなエネルギーになります。自信というエネルギーを貯めて、新学期からまた努力していきましょう。皆さんのこれからの活躍を大いに期待いたします。次の言葉を贈ります。それは「あたま」という言葉です。

「あ」・・・「あかるく」：明るい人には、たくさんの人が集まってきます。

「た」・・・「たのしく」：つらいことこそ、楽しくできるように工夫して。

「ま」・・・「まえむきに」：マイナス思考を、プラス思考に変えて前向きに。

「あかるく、たのしく、まえむき」になるために、自分の「あたま」を使っていきましょう。

保護者の皆様へ感謝！！

一年間、東北中学校の活動について、ご理解とご協力をありがとうございました。中学生の時期は、これから大人になっていく基盤づくりという意味で、大変重要な時期であると認識しています。一方、私たちの周りの社会を俯瞰してみると、東日本大震災やコロナ禍という人と人とがつながる重要さや、つながることで何かを創り上げる楽しさを体験させることが妨げられる状況が続いています。子ども達を伸ばすためには、たくさんの経験を積み重ねていくことが必要です。（私達大人も、たくさんの経験を積みながら、大人になってきていると同じです。）学校では、人とのつながる意味や人と協力することで大きな目標を達成できる経験を、少しでも増やそうと工夫をしながら行いました。たくさんの経験を積むことの中には、成功することや失敗することとも経験として含まれています。失敗やトラブルを負として考えるのではなく、上手くいく方法や折衷案を考えられる力を育てたいと考えています。一度失敗したからとチャレンジを諦めさせたくない。何度も挑戦しながらうまくいく解や、お互いが共存していくことができる考え方を見つけ出させることが、大人になるときに必要な力です。その点で、保護者の皆様には、お子様を見守っていただき、たくさんの助言をしていただいていることに、感謝申し上げます。

これからも、保護者の方々と学校が、お子様のより良い成長という目標に向けて、同じ方向を一緒に見ながら、教育を進めていきたいと思っています。来年度も、ご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。